

## 代表質問

## 厳しい財政状況の中、市民が求める優先順位の見極めを



場面も想定されるため、行財政改革もあわせて進めながら、厳しい財政状況の中でも自立した財政運営が可能となるよう努める。

**答** 昨年度実施した耐震診断と現状調査の結果を踏まえ、改修・建て替えなどの整備手法別のモデルケースを設定し、論点整理を行った。市民アンケート調査では、この論点を踏まえた設問となり、18歳以上の市民から世代を問わず2,000人を無作為に抽出し実施したい。また、付属機関による検討も願います。

**再発言** アンケート調査の対象者は無作為ではなく、世代や性別なども加味した構成比率を考慮すべき。また、直接意見を聞く場や、市民・議会への情報公開と説明を求める。

### 厳しい財政状況の中 選ばれるまちとなるには

**問** 4カ年計画のまちづくり総合プランも2年経過し折り返し地点に来ているが、進捗状況に対する市長の所感は。

**答** 子どもを産み育てたいと思える環境づくり、教育の向上、産業の多様化と雇用の場の確保を3本柱として様々な取り組みを実施しており、プランに掲げる全施策の目標達成率は28年度実績で約90%。おおむね順調に進捗している。

**問** 様々な事業に取り組む一方で財政は非常に厳しい状況にある。今後、庁舎整備や学校再編、再開発事業など大きな財源を伴う事業もあり、どう優先順位をつけ、事業費の平準化を図っていくのか。

財政運営に対する考え方は。

**答** 非常に厳しい財政状況が続くものと想定され、市庁舎の耐震化問題など、非常に多額な費用が必要となる事業も複数想定される。公債費負担の増加等を考えると、事業規模の縮小や財政負担の平準化、行政サービスの縮小なども含め非常に厳しい判断が必要な

### スクールソーシャル ワーカーの配置拡大を

**問** 子育て支援の拠点となる、子育て世代包括支援センターが開設され、切れ目のない支援とワンストップによる相談窓口の充実が期待される。

相談内容は深刻化、複雑化しており、スクールソーシャルワーカーの果たす役割も大きいと思うが、教育委員会と保健福祉部の連携によるさらなる配置拡大を望むが見解は。



**答** 御指摘のとおり関係機関との連携が非常に大切であり、専門職等を配置していく中で十分な連携が図られるか見極めていきたい。

### 市庁舎の整備は十分な 情報公開と意見集約を

**問** 庁舎整備における検討の進捗状況と、市民アンケートの内容や対象者について聞く。

### 新たなガイダンス施設 宮原坑に必要なのか

**問** 世界遺産としての価値を保全し、次世代に伝えていくことの重要性は理解するが、石炭産業科学館があるにもかかわらず約1億円をかけて新たにガイダンス施設を宮原坑に設置する必要があるのか。

**答** 石炭産業科学館は全体の説明であり、新たな施設は宮原坑の歴史や役割を説明するなど役割分担しながら、最低限の整備に努めていく。

### 小中一貫校の設置を 求める要望への対応

**問** 学校再編の見直しを行う中で、松原校区における小中一貫校の設置検討を求める地域からの要望をどう議論し、検討するのか。

**答** 適正規模・適正配置の検討委員会で検討される予定。